

対象	中学校 3 学年以上
教科	保健・体育科
該当 単元	中学 3 年 「文化としての スポーツ」 ・国際的なスポーツ 大会とその役割
教科書	学研・大日本図書等
掲載日	2017. 12. 13. 朝刊 12 版 20 面

高難度ミヤチ 新技に手応え

男子鉄棒のスペシャリスト宮地秀享（茗溪ク、愛知県半田市出身）が、10月の世界選手権で成功させたI難度の新技「伸身コバチ2回ひねり（伸身プレトシュナイダー）」の精度を上げている。
6月の全日本種目別選手権などで披露した後、世界選手

鉄棒・宮地東京五輪へ急成長

体操

権の種目別鉄棒で国際大会では初めて決めた。
伸身後方宙返りとひねりを2回ずつ入れる新技は「ミヤチ」と名付けられる見通しで、国際試合初制覇となった9、10日の豊田国際競技大会でも観衆のごよめきを誘った。「調子が良い悪いでな



鉄棒でI難度の「伸身プレトシュナイダー」を成功させた宮地秀享の連続合成写真（左下から時計回り）＝豊田市総合体育館で

く、決めたいときに決められるようになってきた」と自信を深める。
I難度は全種目で最も難度が高い。第一人者の内村航平（リンガーハット）が得意とする「カッシーナ」は、ひねりが一つ少なく、難易度は二つ下。世界選手権は別の離れ技で落下して5位にとどまったが、宮地は「出ている全選手を見て勝てるなど思った」と手応えを感じた。
筑波大時代はけがで結果が出なかったが、当時からI難度の「プレトシュナイダー」をこなすなど、鉄棒の潜在能力は「すばめけていた」。
競技の傍ら、中高一貫校で非常勤講師を務める23歳の苦勞人が遅咲きながら急成長。「来季は同じ技をやってくる選手が出てくる。さらに差を広げたい」と言い、「ミヤチ」の進化形や離れ技以外のつなぎで改善点を模索する。
新技を軸に演技構成を練り上げ、2020年東京五輪までに誰も追いつけない領域を目指す。「今は6・7のDNSコア（演技価値点）を来季は7点台にしたい」と飽くなき挑戦を続ける。（佐藤航）

問1：10月の世界選手権と12月の豊田国際競技大会で、宮地選手が成功させた鉄棒I難度の技は何という技ですか。詳しく説明しましょう。

（ ）という技で、身体の動かし方でいえば、伸身姿勢で（ ）と（ ）を2回ずつ行う技です。

問2：体操競技界の第一人者、内村航平選手が得意とする「カッシーナ」の難度はどのくらいですか。（ ）難度

発展：新しい技を初めて成功させるとその人の名が技の名前になります。宮地選手の成功させた技を、屈伸姿勢で世界最初に成功させた人は誰ですか。

（ ）

【活用にあたって】

この単元、教科書では知っている国際的なスポーツ大会を確認し合うことから学習が始まるように設定されています。中学生になると部活動が始まるので、生徒自身と関わりの深いスポーツや関心のある選手も出てくることでしょう。2020年の東京オリンピック開催については既に多くの報道がなされており、関心もあることと思います。

数多いスポーツの中でも技に初めて成功させた人の名前がつくのは体操だけではないでしょうか。「ツカハラ」「モリスエ」「ヤマワキ」「シライ」等、現在の競技会においても解説者が頻繁に口にしています。次に名前がつきそうな新技を連続合成写真で確かめられる楽しさを、このワークシートで味わってほしいと思います。

解答例

問1： 伸身コバチ2回ひねり・後方宙返り・ひねり

問2： G 難度

問3： ブレトシュナイダー